

No.458

火星を見よう！

この5月～6月、火星と地球が近づいた状態になります。火星も地球も太陽の周りを回っていますが、その間に互いの距離は変わり、約2年と2ヶ月おきに近くなるのです(図1)。5月31日には、最も近づいた状態(最接近)となります。

火星の表面には、黒っぽい地面の模様や、南極・北極あたりの白いドライアイス(二酸化炭素の氷)などがありますが(図2)、これらを望遠鏡で見ることができるのは、火星と地球の距離が近いときだけです。火星最接近の前後数ヶ月は、望遠鏡による火星観察の絶好のシーズンです。

火星は赤い色の土で覆われた砂漠のようなところで、土の中には水が凍った氷があるようです。火星に行った宇宙飛行士の映画もありましたが、この水を使えば、将来は人類が生活できるかもしれません。有名なタコ型の火星人はいないようですが。

今シーズンの火星を見ると、星空の中での見え方にも注目です。今年の火星はさそり座付近に見えます(図3)。さそりの心臓にあたる星「アンタレス」は、“火星に対抗するもの”という意味があり、火星とその不気味な赤さを競っている星です。色くらべをしてみましょう。

また、すぐ近くには土星があり、よく見えるシーズンとなってきました。そして西の空には木星が明るく輝いています。これら3つの惑星を星空で探してみましょう。そして、ぜひ望遠鏡でも楽しんでください。(林 忠史)

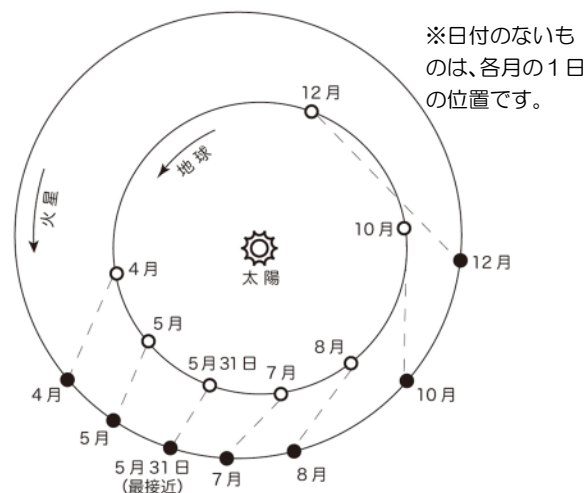


図1 火星と地球の位置関係。ともに太陽の周りを回るため、互いの距離(点線の長さ)は変わります。

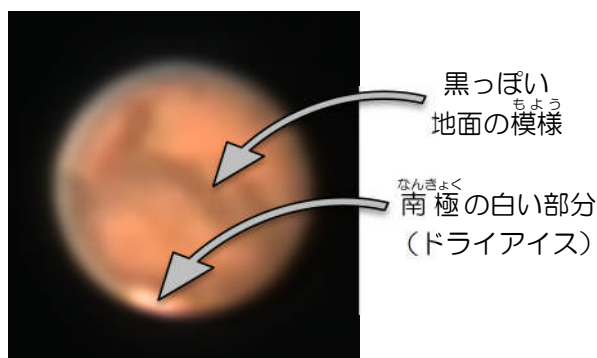


図2 望遠鏡での火星のみどころ

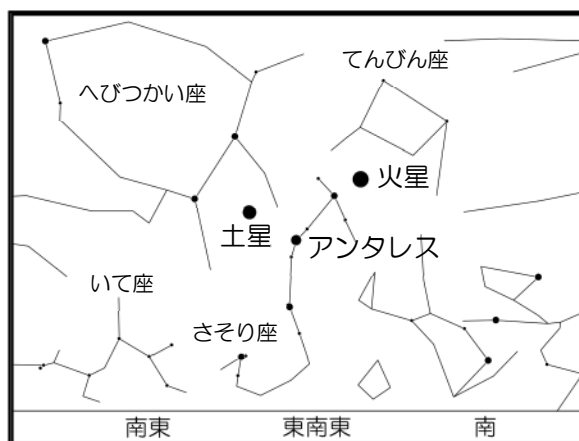


図3 星空の中での火星と土星
(5月31日午後10時ころ)